

おか や そう すけ

岡谷惣助

能く祖先の遺訓に遵ひて、業を励み家を齊ふ

—七宝会社、機械紡績、国立銀行など新規事業創設に尽力—



岡谷惣助 (1851 ~ 1927)
写真：岡谷鋼機(株)提供

岡谷惣助(第10代、1851~1927)は代々鉄刃物を商う豪商笹屋家に、1851(嘉永4)年に生まれ、17歳の時、惣助を襲名した。維新後、買い集めていた古銅等の値上がりで巨利を得、念願の東京支店の開設を行なうとともに、この資産を基に、維新後の混乱を乗り切り、財界人として各種新規事業に取り組んだ。伊藤次郎左衛門家とは姻戚関係にあった。

■七宝会社、紡績会社の設立

県令井関盛良や村松彦七(別項)の勤めで七宝会社を1871(明治4)年7月に設立、地元産七宝焼製品の製造販売を行ない、海外の万国博にも出展し、高い評価を受得た。しかし、1883(明治16)年の



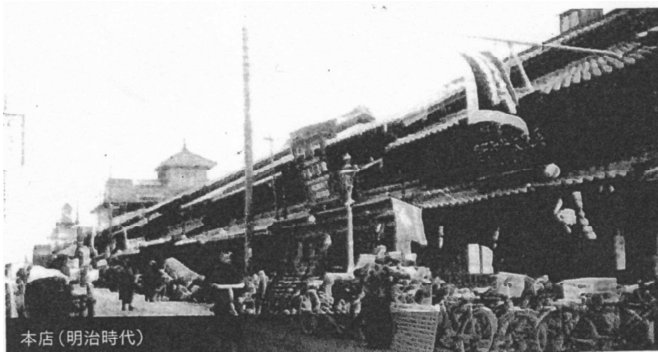
七宝会社製花瓶
横山美術館所蔵

アムステルダム万博で想定外の失費を出し、会社は閉鎖に追い込まれたが、七宝製品の美術品として高い評価と海外への販路を拓いた先駆的事业であった。

また、村松の勤めで、名古屋財界一体となって機械紡績を行なう名古屋紡績

を1881(明治14)年3月に設立、岡谷は取締役を務めた。

水車動力から蒸気動力への変更など着工に手間取ったが、1885(明治18)年1月、堀川端の正木町に紡績工場を建設し、土族の婦女子を雇用する時代の要請に応えた事業として業績を伸ばした。名古屋紡績は、後に三重紡績に合併されている。



本店(明治時代)

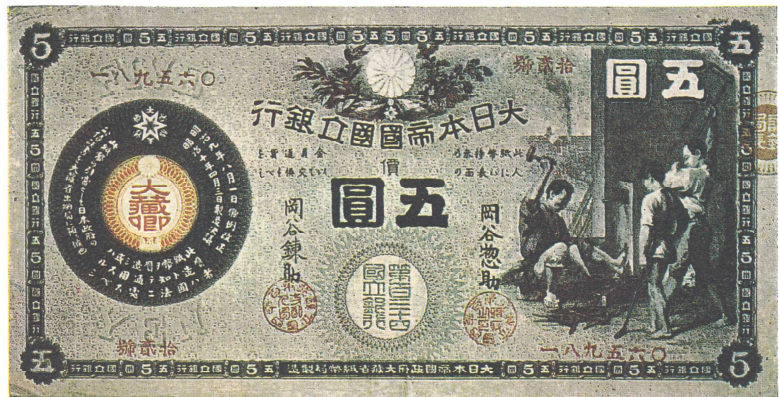
明治期の岡谷商店

出典：『岡谷鋼機350年の歩み』2021年

■百三十四国立銀行、愛知銀行頭取

名古屋市長吉田禄在に請われて、銀行創設にも尽力した。1877(明治10)年7月に第十一国立銀行、翌11年3月に第百三十四国立銀行が設立された。両銀行は国立銀行条例の期限が切れると、1896(明治29)年に愛知銀行に統合され、岡谷は頭取に就任した。明治銀行、名古屋銀行と並び名古屋の中心的金融機関であった。

このほか、名古屋瓦斯、名古屋製陶、朝鮮起業などの諸会社に関わったほか、県会議員(明治29年)、名古屋商業会議所副会頭(明治34年~42年)等を務め、1906(明治39)年には貴族院議員にも選ばれている。1926(大正15年)、家督を第10代惣助(3男清治郎)に譲り、1927(昭和2)年2月、78歳で死去した。



第百三十四国立銀行の五円券(岡谷惣助の名前が入っている)

出典：『東海銀行史』1961年

(浅野伸一)